共立女子大学大学院　家政学研究科　人間生活学専攻　カリキュラムツリー

ディプロマ・ポリシー

DP1-1
客観性・自律性ー学識と倫理
知識基盤社会を支える人材として、広い視野に立ち、高い倫理観とともに、生活の主体である人間に関する卓越した学識を身に付けている。

DP1-2
客観性・自律性ー主体的判断力
社会や環境の変化に対応するために、自然科学および社会科学・人文科学的諸視点から幅広い知見を身につけ、主体的に思考し、家政学の研究や教育に新たな展開を図る先導者として広く社会に貢献するために、自律的に行動することができる。

DP2-1
課題発見・解決力ー社会的役割
人間生活学の果たす社会的役割を理解し、人間生活に関わる学術的研究を通して、社会的・経済的価値の創出、あるいは、人間的・社会的意義を見出すことができる。

DP2-2
課題発見・解決力ー課題解決力
人間生活に関する課題を発見し、論理性や批判的思考に基づき、自ら課題解決に向けて仮説を構築し、分析、解決するために独創的な研究を行う能力を身に付けている。

DP3
リーダーシップ
自立した研究者として、学術的な裏付けに基づき、主体的に他者との協働関係を作り、責任感を持ち、目標達成のために行動することができる。

CP

生活主体である人間について、自然科学的および社会科学的・文化的考察を深め、生活を構成する諸領域の総合的に理解するため、人間生活論領域および生活科学領域を設置する。生活論領域には身体機能論、生活主体者論、生活文化論を、生活科学領域食生活素材論、衣生活素材論、食生活計画論、衣生活計画論を組み合わせた教育課程を編成する。
専門分野の異なる複数の指導教員のもとで、家政学における学術的な課題を設定し、調査分析に基づく資料作成・プレゼンテーション・ディスカッションにより研究を計画的に進め、その成果を博士論文にまとめる。

人間生活論領域

身体機能論Ⅰ（病態生理研究）
身体機能論Ⅱ（物質代謝研究）
身体機能論Ⅲ（健康科学研究）
身体機能論Ⅳ（応用生理研究）

生活主体論Ⅰ（人間形成研究）
生活主体論Ⅱ（児童福祉研究）
生活主体論Ⅲ（人間発達研究）
生活主体論Ⅳ（発達科学研究）

生活文化論Ⅰ（発達環境研究）
生活文化論Ⅱ（生活環境形成研究）
生活文化論Ⅲ（生活デザイン研究）
生活文化論Ⅳ（人間空間デザイン研究）
生活文化論Ⅴ（生活環境研究）
生活文化論Ⅵ（表現文化研究）
生活文化論Ⅶ（生活道具研究）

人間科学領域

食生活素材論Ⅰ（食品素材研究）
食生活素材論Ⅱ（食品機能研究）
食生活素材論Ⅲ（食品微生物研究）
食生活素材論Ⅳ（食品物理化学研究）

衣生活素材論Ⅰ（被服素材研究）
衣生活素材論Ⅱ（被服管理研究）
衣生活素材論Ⅲ（被服機構研究）

食生活計画論Ⅰ（調理設計研究）
食生活計画論Ⅱ（栄養教育研究）
食生活計画論Ⅲ（給食経営管理研究）

衣生活計画論Ⅰ（服飾文化研究）
衣生活計画論Ⅱ（被服心理情報研究）
衣生活計画論Ⅲ（被服造形研究）
衣生活計画論Ⅳ（被服情報工学研究）

カリキュラム・ポリシー

DP1-1との関連性が高い科目

DP1-2との関連性が高い科目

DP2-1との関連性が高い科目

DP2-2との関連性が高い科目

DP3との関連性が高い科目

アドミッション・ポリシー

AP1-1
家政学研究科人間生活学専攻における教育研究の特徴を理解し、高い倫理観を身に付ける素養を有している。

AP1-2
家政学研究科人間生活学専攻における学びを主体的に追求し、研究者として自律的に行動しようとする意欲と目的意識を有している。

AP2
家政学研究科人間生活学専攻での学修・研究・論文作成に必要な基礎的な研究実績及び専門分野に関わる高度な知識や技能を有している。

AP3
学術的もしくは社会的な見地から人間生活学に関する多様な課題を発見し、論理的に提示できる能力を有している。

AP4
多様な価値観や意見を尊重し、協働して課題に取り組むことができる。